

## やすらぎ みどりの美術館 農園がアートに?! 植木が動物やおもしろい形に変身!

立川駅周辺の都市のにぎわいから離れた西砂町は、立川の西部、五日市街道沿いには大きな旧家が立ち並び、農業や園芸が盛んな地域。

そんなやすらぎを感じるエリアに、アートと緑が楽しめる「みどりの美術館」が昨年9月にオープン。

美術館といっても、養樹園を一般の方に開放した自然がいっぱい感じられる全国でも数少ない屋外型の美術館。「市民の方に開かれた農園にしたい」という小林館長の思いからオープンされました。

この美術館の作品は、緑を刈り込んでつくるトピアリー。トピアリーとい



トピアリーは見て楽しく、育てても楽しいですよ。



みどりの美術館館長 小林公成さん

う言葉はあまり聞きなれないかもしれませんが、ヨーロッパの庭園や日本ではディズニーランドで、樹々が動物やいろいろな形に刈り込まれているのを見たことがある方は多いのでは。また、アートと融合させた作品は、「みどりのすべり台」「空飛ぶブランコ」など子どもが遊べる遊具となっていて、子どもから大人まで楽しめる場所です。

(石橋武史 記)



カッコいいブランコだね

空飛ぶブランコ

予約が必要です時 午前10時～午後4時(日曜日、祝日休館) 場 小林養樹園(西砂町4-1-3) 費 無料 申 込 (531)0123へ HP <http://midorinobijutsukan.com/>

## 富良野自然塾 東京校 「北の国から」で有名な倉本聰さん主宰の人気プログラムが 国営昭和記念公園で!

ドラマ「北の国から」などで有名な作家・倉本聰さんが、北海道富良野市で主宰する「富良野自然塾」が首都圏で初めて開校しました。

自然塾は、五感を使って生活する大切さや地球46億年の歴史が学べる体験プログラムで誰でも参加できます。取材に行った日は、サッカー元日本代表監督・岡田武史さんをインストラクターに招いてのスペシャルイベントでした。

岡田さんは、学生時代から環境問題に深く関わっているそうです。「現代、たくさんの社会問題にあふれているが、



目隠しすると、いろいろな音や感触を味わえるよ

目隠しをして裸足で歩く「裸足の道」視覚以外の感じる力を再認識します



監督になっていなかったら、環境の専門家になっていましたよ

地球の構造を学ぶ「1mの地球」

特別インストラクター 岡田武史さん

大人が子どもたちのために少しでも良くしようと頑張る姿を見ることが大切だと思う」と岡田さん。

「地球は子孫から借りているもの」プログラム最後の石碑はネイティブアメリカンに古くから伝わる言葉。

国営昭和記念公園の広大な敷地で行われるプログラムは、まるで北海道富良野に来ているよう。

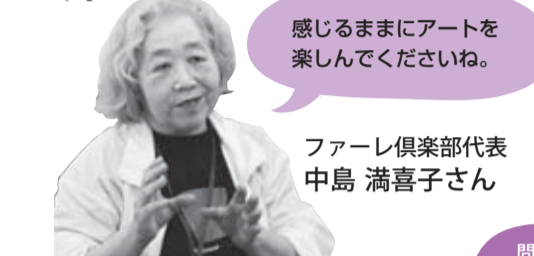
皆さんも自然塾で地球を感じてみませんか! (石橋武史 記)

料金 (入園料別途)	大人	小人 (高校生以下)	シルバー (65歳以上)
	1,700円	900円	900円

予約が必要日時 ▶ 午前の部=午前10時～正午 ▶ 午後の部=1時30分～3時30分 場 国営昭和記念公園 申 込 富良野自然塾東京校 ☎(528)7005へ HP [http://showa-kanricenter.jp/event/2014\\_furano/4.html](http://showa-kanricenter.jp/event/2014_furano/4.html)

## やすらぎ ファーレ立川アート 観て、触れて、感じるままに 世界が集う美術館

世界36か国、92人のアーティストによる109の作品が、立川駅北口の商業・業務エリア「ファーレ立川」にやさしく溶け込んでいます。自転車が放置されそうな日陰のような所や、車止め、換気口カバーとしてなど、都市の機能を生かしたアートは、「発見と驚き」がいっぱい。世界的にも類をみない珍しい屋外アートです。



感じるままにアートを楽しんでくださいね。

ファーレ倶楽部代表 中島 満喜子さん

日ごろからアート作品に目を配り、アートツアーのガイドなど、ファーレアートの魅力を伝え続けています

問題 アートはどこにあるでしょう?



バーコードブリッジ 坂口寛敏作(ファーレ立川)

まち全体が美術館「TACHIKAWA ART COLLECTION」 <http://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp/artcollection/>



年2回、市民参加によるアートの清掃活動を行う「びかびかアート」実際にアートに触れていると、ますます親しみがわいてきます。

「ファーレ立川は、世界に名をはせる20世紀最後のビッグアーティストが集まった最高の美術館である」と語るのは、20年前にファーレ立川アートを手がけた北川フラムさん。「さまざまな考えのアーティストに参加してもらい、その多様さが世界を映す街としたかった。人それぞれ違っても、一人ひとりが尊厳を伝えてくれた」と言います。

世界の精神の断片が集う、このファーレ立川アートが、立川の誇りとして、これからもずっと守られていくことを願っています。

(大倉美由紀 記)

# 立川大好きな市民編集委員が見つけた 「にぎわい」と「やすらぎ」のまち

## やすらぎ 健康とやすらぎの立川南側フットパス 水と緑、文学と歴史の散歩道

赤線と言ってもアーバンスタイルのヤングにはなじみは少ないだろう。かつて公園上で道路は赤線で示されていた。赤道とも言い里山などには今でも残っている。そんな小径をつなげたものがフットパスだ。

富士見・柴崎・錦・羽衣町の外輪を結ぶ小径を歩いてみた。(北林 記)



JR西立川駅 → 蕎麦屋萱草庵(富士見町1丁目)、まずは腹ごしらえは横田小蕎麦・桜切り

東京都農林水産振興財団  
・「花と緑の散策路」など見学エリアは、平日中なら自由に散策可能  
・約50種類の桜をはじめさまざまな樹木があり、蝶梅、椿、寒桜も楽しめます  
・10月は展示・体験・販売等イベント満載の東京農林水産フェアを開催



歴史民俗資料館 → 諏訪神社



立川市出身のプロフラメンコダンサー 堀江朋子さん

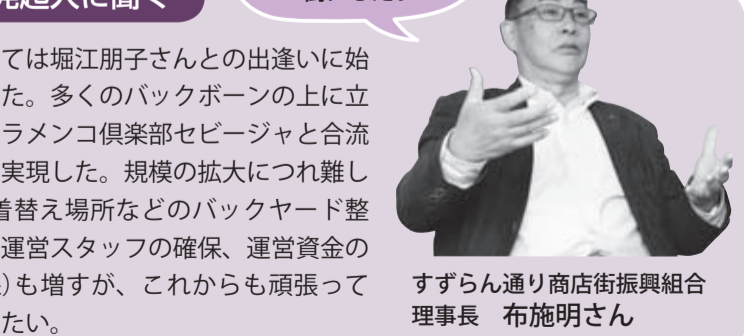


根川緑道を中心に立川ゆかりの文人の歌碑・句碑が14あり、詩歌の道として市ホームページに掲載されている。「冬の水一枝の影も欺かず 草田男」普濟寺で開かれた武蔵野探勝会で披露されると虚子が唸り声をあげていたと伝えられている。

## にぎわい 立川フラメンコ 情熱の500人パレード

南口ビッグイベントの一つ立川フラメンコ。500人規模ともなると東京はもとより、日本国内、もしかしたら世界にも例がないかもしれない。このとんでもないイベントの仕掛け人に会ってみたいと訪ねた。イベントはパレード以外にもいくつかのプログラムがある。前夜祭と当日のライブハウスや屋外でのライブ、流して回る出前フラメンコは1週間にわたるとのこと、地元においても意外に知らないことが多いものだ。今年は5月5日(祝)、6日(休)にすずらん通りほかで開催。足を運んで丸ごと楽しんでみたい。(北林 記)

にぎわいのある 明るい住みやすい 街にしたい



すずらん通り商店街振興組合 理事長 布施明さん

問 TTM(株) ☎(524)5787 HP <http://e-ttm.co.jp/flamenco/>